

カキの育て方(1)

カキは、日本、中国、朝鮮半島原産で、わが国では古くから栽培されていました。明治時代に全国各地の品種から「富有」のような優良品種が選抜され、各地に普及しました。本来は雌雄同株ですが、園芸品種のほとんどは交雑種で、そのため雄花が全くないか、あっても極めて少ないという特徴を持っています。

おもな品種

甘柿……富有、次郎、伊豆など。

渋柿……西条、祇園坊、愛宕など。

植え付け(図1)

時期 11月中旬～12月末(暖地)、3月中旬(寒冷地)。

株間 多数植え付ける場合は、約5m離します。

整枝(図1, 2)

図2のような成木にするために幼木の時から主枝の位置と数を決めます。(図1)

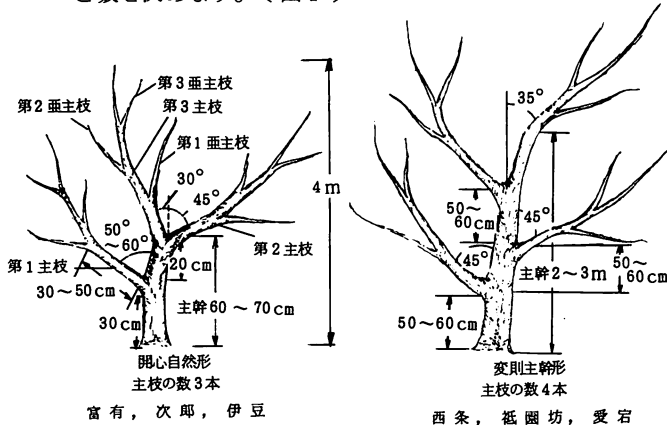


図2 整枝の例(成木)

剪定(図3, 4)

- 主枝および垂主枝の内側に出た徒長枝や下垂枝は切り取ります。
- 病害虫におかされたものや枯枝を切り取ります。
- 結果母枝(長さ30～40cmで先まで太く、大きい芽が1～2個ついている)を1㎡当たり約7本残します。
- 時期は2月上旬から下旬までが適当です。

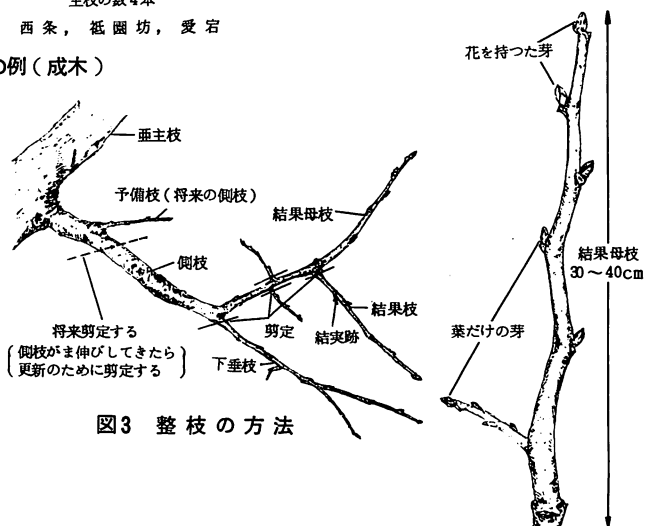


図3 整枝の方法

図4 結果母枝

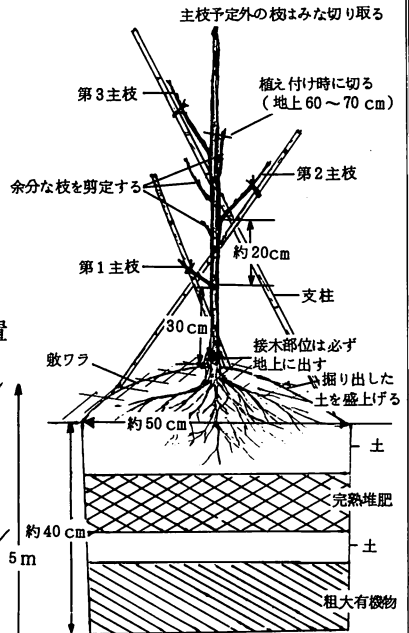


図1 植え付け方と植え付け1年後の整枝、剪定(図2の開心自然形にする場合)

カキの育て方(2)

施肥量と時期

	N	P	K
元肥 12月-1月	200 g	150 g	100 g
追肥 6月下旬 -7月上旬	50 g	—	50 g

○三要素を別々に与える時は、N＝尿素、P＝ヨウリン、K＝硫酸カリが一般的です。

○家庭では、油粕と骨粉の等量混合肥を、5-10年生の木で約10kg与えれば代用できますが、ひかえめの方が良いでしょう。

○左の表に示した量は、5-10年生の木の場合です。その他の樹令の木には次の要領で量を決めて下さい。

1-4年生 表の0.6倍

11-20年生 表の1.7倍

21年生以上 表の2.0倍

受粉

一般の柿には花粉がないので結実が悪かったり、落果が多い場合は受粉用品種を植えます。

受粉用品種には、禅寺丸、狸々、大宮早生、赤柿、正月などがあります(1本植えれば良い)。

摘果

7月上旬までに、上向き果、傷果、病害を受けたもの、発育不良果、奇形果を摘果します。

富有で、葉数15~20枚、西条で15葉に1果の割合でヘタの大きな実を残します。

病気の防除

冬期の落ち葉や枯枝は、落葉病、炭疽病におかされているので焼却します。

また、登録がある農薬を適期に使用して、病気のまん延を防ぎましょう。

害虫の防除

カミギ(ヘタムシ)の防除には、11~12月に粗皮削りを行って幼虫の越冬を防ぎます。

ロウムシやカイガラムシも問題となりますので、登録がある農薬を適期に使用し、被害を抑えましょう。

脱渋法 渋抜き用には、同じ大きさで、八分目程度着色した果実を収穫します。

1. 湯抜き法 … 脱渋の容易な品種(西条など)に適します。37~40℃の湯に約10時間漬けます。
2. アルコール法 … 容器の中に、35度の焼酎か、95%エタノールの3倍液を浸ませた新聞紙と果実を、サンドウィッチ状に並べて密封します。(100%アルコールに換算して10kg当たり80~100cc必要) 品種によりますが、20℃で、3日~14日で渋抜きができます。
3. ドライアイス法 … 厚地のポリ袋に果実を詰め、15kg当たり100gのドライアイスを入れて密封しておけば3~4日で脱渋されまされます(ガラス容器などは破裂することがあるのでさけます)。
4. 干し柿 … カビ防止のため、2%塩水に5分浸漬した後、日当たりと風通しの良い場所につるします。3~4週間でできあがります。

